

加須とひたちなかの中小製造業

連携で海外販路の拡大へ

セイラ 上海へ商談ツアーに参加

切削加工部品を製造するセイラ(埼玉加須市、原澤静男社長)は、加須市商工会やひたちなか商工会議所(茨城県)の企業と連携して海外市場の開拓に乗り出す。昨年は、支援事業を受けて異業種グループで構成した訪中団とともに現地企業への商談会に参加した。この経験を生かし、現地メーカーが対応できない試作・小ロット分野に的を絞り、現地に工場を展開せずに販路を作り出すとしている。



原澤静男社長

リーマンショック後の大手メーカーの海外シフトや国内需要の低迷に悩まされていた加須市商工会は、こうした企業の海外展開を支援する事業を予定していたが、震災で国の予算が復興支援に回り単独で事業を立ち上げることができなくなっていた。そんな中、中小企業診断士を通じて交流のあった、ひたちなか商工会

議所と連携することで復興支援事業の採択を受け、中国市場への展開を目的にして向市の異業種グループ8社で構成される「海外販路開拓訪中団」を構成。通訳やパンフレットの翻訳、プレゼンテーション方法などあらゆる面でサポートを受けて昨年10月30日に上海に赴き、日系企業6社と県の現地支援センターで商談活動をした。

訪中団のメンバーは、ひたちなか市から4社、加須市から4社で、主にプレス・溶接・切削など金属加工メーカーが集まった。訪中の目的は、上海の自動車・電子機器・医療機器・光学機器の業種に対して、8社やその他の地元企業との連携ネットワークにより、部品や資材・工具の提供で受注を獲得しようとするもので、特に製造コスト削減の提案や試作・少量加工など海外では対応できないサービスに狙いを定めた。

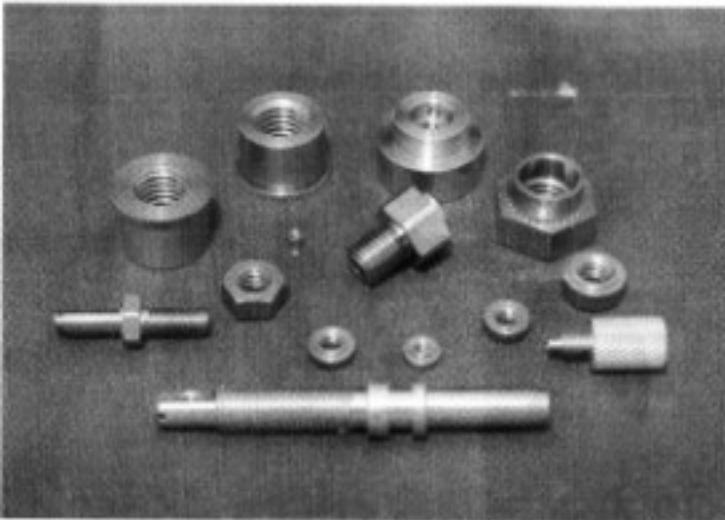
今回の訪問で、加須の訪問で、加須、ひたちなか間の国内連携も生まれている。今後は工場見学や情報交換、また加工における分業体制の構築の構築を進める。現地に進出している会社のネットワークを通じてベトナムを足がかりにチヤイナフラスワンのアラスワンの開拓も計画している。上海における資材の販売窓口業者の販売窓口業者も見つかりつつあるという。こうした連携を深めながら、

再び海外派遣団の結成を模索している。

原澤社長は今回の経験により単独での海外開拓にも意欲を示す。同社の強みは少ない人材でNC設備を駆使した精密加工部品。日系企業は、海外に出た以上そのメリットを生かそうとして現地調達を原則とするが、下請けに出す現地メーカーでは対応できないものが必ず出てくるという。主に試作品や小ロット品であり、それらはある程度のコストが許容される分野であり、同社はその隙間に光を求め、現地に自社工場を置かず海外メーカーとの直接取引を目指す。「少量品なら日本からでも数日で運べる。商社を挟まず、最低でも1社の経由に抑えれば、コスト面でも海外品に對抗できる」と強調する。

海外の販売窓口については「両市の連携が進んで共同で現地に事務所を設ければいい。国内で海外留学生を採用して経験を積ませて、その後、独立させて窓口機能になってもらう」という構想も考えている。

セイラ・工場 埼玉加須市志多見83-6加須むさしの工業団地内、電話0480-61-6101、http://seira-car.com/



セイラの切削加工部品

イザ! 新市場へ

機種の業種に対して、8社やその他の地元企業との連携ネットワークにより、部品や資材・工具の提供で受注を獲得しようとするもので、特に製造コスト削減の提案や試作・少量加工など海外では対応できないサービスに狙いを定めた。

今回の訪問で、加須の訪問で、加須、ひたちなか間の国内連携も生まれている。今後は工場見学や情報交換、また加工における分業体制の構築の構築を進める。現地に進出している会社のネットワークを通じてベトナムを足がかりにチヤイナフラスワンのアラスワンの開拓も計画している。上海における資材の販売窓口業者の販売窓口業者も見つかりつつあるという。こうした連携を深めながら、

再び海外派遣団の結成を模索している。

原澤社長は今回の経験により単独での海外開拓にも意欲を示す。同社の強みは少ない人材でNC設備を駆使した精密加工部品。日系企業は、海外に出た以上そのメリットを生かそうとして現地調達を原則とするが、下請けに出す現地メーカーでは対応できないものが必ず出てくるという。主に試作品や小ロット品であり、それらはある程度のコストが許容される分野であり、同社はその隙間に光を求め、現地に自社工場を置かず海外メーカーとの直接取引を目指す。「少量品なら日本からでも数日で運べる。商社を挟まず、最低でも1社の経由に抑えれば、コスト面でも海外品に對抗できる」と強調する。

海外の販売窓口については「両市の連携が進んで共同で現地に事務所を設ければいい。国内で海外留学生を採用して経験を積ませて、その後、独立させて窓口機能になってもらう」という構想も考えている。

セイラ・工場 埼玉加須市志多見83-6加須むさしの工業団地内、電話0480-61-6101、http://seira-car.com/